

臯月(さつき)梅雨に備えて身を清める

臯月という名は、一般に早苗月(さなえづき)が語源とされています。早苗とは苗代(なわしろ)で育った稲の苗のことなので、この頃が田植えの時期だという意味になります。躑躅の仲間のサツキは、4月に咲く躑躅の後を追って開花することから同じ字をあて、正式には臯月躑躅(サツキツツジ)といます。ゴールデンウィークで始まる5月は、そんな名所へも出かけたいくなる行楽の季節。暑くもなく寒くもなく気候は穏やかで、空気も乾いて快適な時期です。残念ながら近年はこの快適な気候は短くなり、5月でも暑く感じる日が多くなってきています。だからこそ、古来の風習を手本にして、端午の節句には菖蒲で邪気を祓い梅雨の前にスッキリするのがいいと思います。



五月のしきたり

5日 端午の節句

元は、田植えをする女性が身を清める日です。武家中心の社会になってから、清めに使われていた薬草である「菖蒲」が、武道・武勇を重んじる「尚武」あるいは「勝負」に通じるとされ男子の節句へと変わっていきました。



【端午の節句にまつわるアイテム】

- 五月人形  
鎧兜など身を守る装具や装飾品が災厄を除けるとされ男子の健やかな成長を祈りました。
- 菖蒲湯  
剣状の菖蒲の葉の芳香が邪気を寄せ付けず、菖蒲の束を入れた湯に入ると病気や災厄を払うとされました。
- こいのぼり  
鯉が滝を登り竜になったという中国の故事に由来します。立身出世の象徴です。



《魔除けとしての菖蒲》

端午の節句で除けたかった「穢れ」とは「病気」です。昔は、病気の正体もわからず治療もままたらなかつた時代子供の死亡率もはととも高かった。もし武士の家で世継ぎの子供がなくなったらお家断絶の可能性もあり切実な問題でした。そこで魔除けとして軒先に飾るほか、菖蒲湯・菖蒲酒、寝るときには枕の下に入れて菖蒲枕これでは、さすがに「魔」も近づくまいだろう。

【今月の1冊】



講談社 ¥950

単行本で2012/1に発行されたものの文庫化されたものです。民主党政権の危機管理能力のなさ、東京電力の企業としての倫理観のなさ及び経済産業省との癒着等をきめ細やかな取材をもとにただのドキュメントではなく、物語として読ませてくれる。この本を読んでいると、福島第二原発もかなりヤバい状況にあったようで(詳しくは桜井よしこオフィシャルブログで)ほんと背筋が凍る思いです。対応が全てもうまくいっていないのによく圧力容器が爆発しなかったなーと感心します。(ある意味奇跡です)

newsweekの表紙を飾ったfukushima50人(実は70人)の勇氣に感謝します。

＝お手入れシリーズ 洗面＝

家のように古い洗面化粧台には色々の汚れが目立ちます。

目につく代表的なものが

- ① 「カルシウム石けん」 水道水に含まれるカルシウム分と石けんや体の皮脂が反応してできた石けんかすです。 浴室用合成洗剤(中性)落ちにくいものは、浴室用クリームクレンザー
- ② 「水あか」 水道水に含まれるケイ酸やカルシウムなどのミネラル分が酸素と反応して製品表面に堆積したものです。 水洗金具など金属製品について水あかはクリーむクレンザーやスーパークリーナー 万能Jrくんで落とせます。スーパークリーナー 万能くんJr amazonで1,073円です。
- ③ 「銅石けん」 銅製配管材から溶出した銅イオンと石けんや皮脂が反応してできたものです。 水あかと同じ方法で落とせます。

